「ふつうの」働き方から置き去りにされた職人

―職人労働が抱える問題とは何か―

松下　ミキ
HS29-0006B

目次

はじめに
第１章　職人とはどのような人なのか
　第１節　方法と手段を工夫する職人的素質
　第２節　職人が抱く「個性の発揮」願望
　第３節　職人の分類
第２章　なぜ職人を選んだのか／なぜサラリーマンを選んだのか
　第１節　職人を選ぶ理由
　　（１）好きと得意を仕事にする
　　（２）自由な働き方と安定の捉え方
　　（３）職人たちの学歴
　第２節　サラリーマンを選ぶ理由
第３章　サラリーマン労働と職人労働の違い
　第１節　作業工程
　　（１）長時間労働の現状
　　（２）長時間労働を行う背景
　　（３）ギター工房における手作業の重要性
　第２節　技術の追求
　　（１）職人にとっての技能の追求
　　（２）ギター職人の技能の追求
　　（３）サラリーマン労働にみられる学生の延長的側面
　第３節　時間的裁量性と職人の意欲
　　（１）職人に与えられる時間的裁量性
　　（２）意欲を維持するには
　　（３）サラリーマン化する職人
おわりに

1　はじめに

今日、働き方改革等の長時間労働是正のための様々な取り組みがあるが、これらの多くはサラリーマンが前提とされている。これに対して職人労働では品質を重視した特有の作業工程や技能の追求が存在するため、このような施策の導入は見送られていることが多い。また日本ではサラリーマンも含まれる第三次産業従事者が2015年には７割を超えており（NHK for School）、産業革命期のような製造業を中心とした社会から変化したことが指摘できる。このようなサラリーマンが「ふつう」となった現代の日本社会では効率を重視する働き方が目指され、職人のような品質を重視する働き方は「ふつうの」働き方から置き去りにされているのではないか。

本論文ではこのように職人が「ふつうの」働き方から置き去りにされている現状と、今日職人労働が抱える問題を明らかにするために、サラリーマンと職人の働き方の違いを検討し、その中でも職人労働の「時間的裁量性」の大きさに着目した。執筆にあたって、職人の働き方としてギター工房の職人へのアンケート調査結果と元職人である工房の経営者への聞き取り調査結果を使用した。

2　職人とはどのような人なのか

職人の持つ内面的特徴を明らかにするために、T.ヴェブレンの職人技本能と「暇な」好奇心、尾高邦雄の職業の三要素の概念を手がかりとした。

「暇な」好奇心とは自身の目的達成に直接関係しないことに対して興味を仕向けることであり、これによって得られた知識は職人技本能の

もたらす方法と手段の工夫に役立つものである。本論文では、職人的な素質とはこの二つのはたらきが高いことであると考えた。

そして職人は労働するにあたって自身の得意とするところを発揮したがるという「個性の発揮」願望が強いことを提示した。

3　安定の保証を何に求めるか

職人の参入の理由を調査結果から分析すると、「好きと得意を仕事にしたい」という志向と、サラリーマンの働き方を堅苦しいと認識し労働するにあたって「自由に働きたい」という志向がみられた。

また就職先を選択するにあたって、職人とサラリーマンの間には安定の保証を何に求めているのかに違いがあった。職人はこの安定の保証を自身の技能に求めているが、サラリーマンは所属する企業に求めていることが指摘できる。本文中では子どもたちが無垢な状態からサラリーマン的な価値観に近づいていく様子を確認したが、この変化には親をはじめとした周囲の人物が既に安定の保証を企業に求める価値観を持っていることが影響している。

4　サラリーマン労働と職人労働の違い

サラリーマン労働と職人労働には時間的裁量性の違いがあることを明らかにするために、職人労働にみられる「作業工程」「技能の追求」の特徴を確認した。

まず職人特有の作業工程が時間に囚われずに作業を行うことに影響しているということを明らかにするために、長時間労働の原因に着目した。ギター職人の場合、塗装の際には一定の時間スプレーガンで吹き付け続け、さらに一定の間隔でこれを繰り返す事が必要である。このように職人労働では効率以上に品質の高さを重視した職人特有の作業工程が存在している。

そして職人にみられる技能の追求の特徴を概観してみると、これは職人の意欲が高くなることによって後押しされ、実際の経験をもとに行われていることが明らかになった。

5　職人のサラリーマン化

職人たちは仕事の時間に囚われずに私生活の時間も使って技能の追求を行っているが、これに対してサラリーマンには仕事を私生活の時間に持ち込みたがらない傾向があると考えられる。しかしアンケート調査結果からは、現役の職人からもこの傾向がみられたため、働き方が異なるはずの両者を同一視するという「職人のサラリーマン化」を指摘した。このようにしてサラリーマンが「ふつう」であるサラリーマン社会の醸成が進むことや、職人がサラリーマン化していくことは、品質を重視する働き方を阻害し職人の存在意義の希薄化に繋がる恐れがあることを示唆した。

6　引用・参考文献

・T. ヴェブレン著/松尾博訳，2014,『経済的文明論－職人技本能と産業技術の発展－』初版第３刷，ミネルヴァ書房

・尾高邦雄，1941,『職業社会学』岩波書店

・濱口桂一郎，2019,『若者と労働　「入社」の仕組みから解きほぐす』８版，中公新書ラクレ

・森和夫，2020,「熟練技の特性と次世代への継承、育成における課題」日本労働研究機構『日本労働研究雑誌』724 号，pp74－84　　他

7　引用・参考サイト

・NHK for School「なぜ第三次産業の割合がこんなに増えたの？～日本の資源・エネルギーと産業～」
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/outline.cgi?das_id=D0005120461_00000
(閲覧日 2020/８/18)

・厚生労働省「働き方改革～一億総活躍社会の実現に向けて～」
https://www.mhlw.go.jp/content/000474499.pdf　(閲覧日 2020/８/18)　　他